

中国銀行におけるリスク管理への取り組み

平成26年12月9日

中国銀行 リスク統括部
桜井 茂樹

中国銀行

1 . リスク管理の組織・体制

- プロフィール・店舗網
- リスク管理体制
- リスク統括部の組織

2 . リスク管理の枠組み

- ポートフォリオ特性
- 資本配賦運営
- 市場リスク管理
- 流動性リスク管理
- 信用リスク管理
- オペレーショナル・リスク管理

3 . ストレス・テストの実践

- ストレス・テストの体系
- ストレス・シナリオ
- 結果の活用
- 今後のテーマ

1．リスク管理の組織・体制

中国銀行のプロフィール・店舗網



【中国銀行プロフィール】
(平成26年3月31日時点)

創立
昭和5年12月9日

本店所在地
岡山市北区丸の内1丁目
15番20号

資本金
151億円

従業員数
3,092人(出向者135人除く)

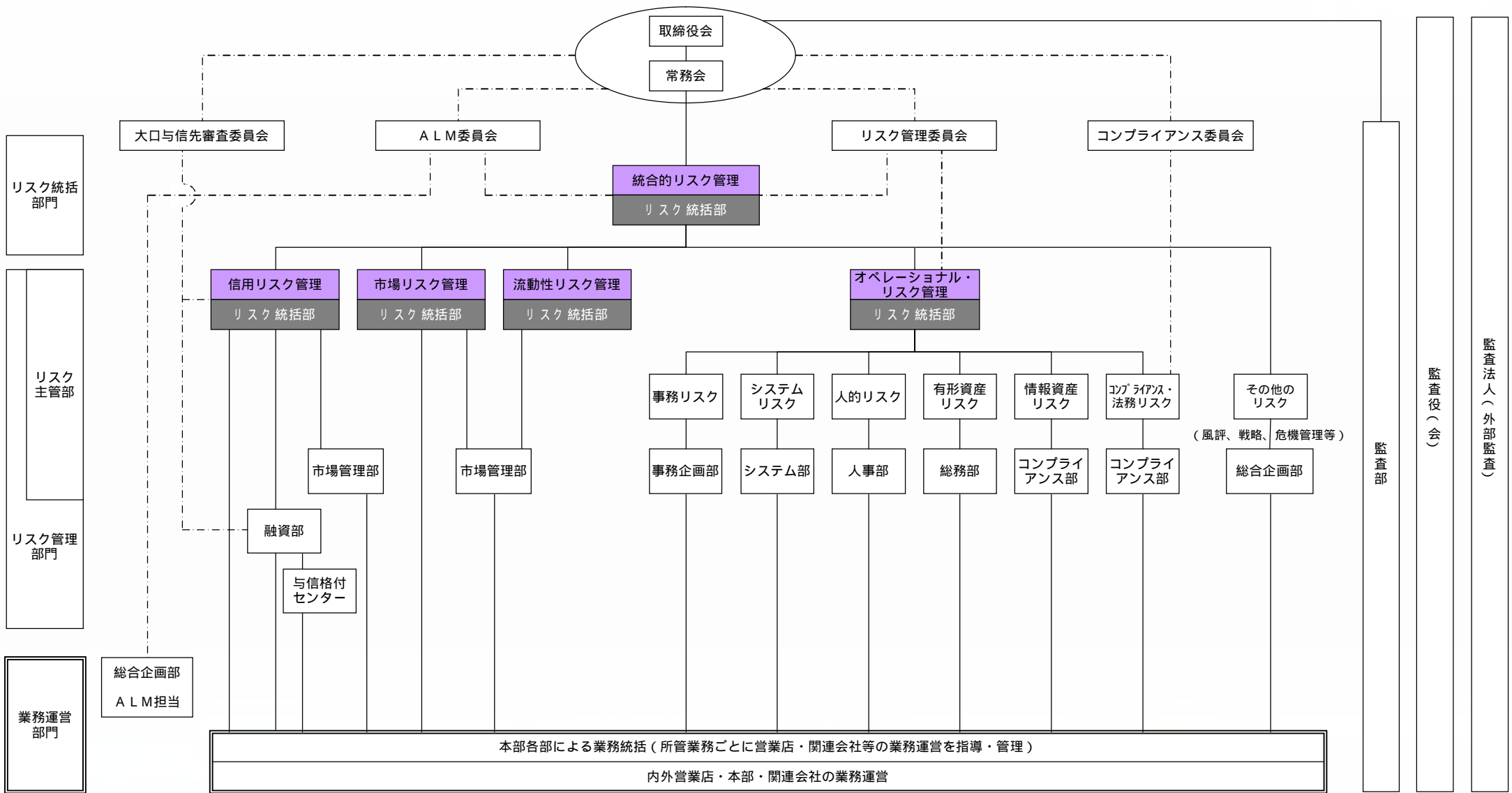
店舗数
162か店
本店、国内支店151、
海外支店1、出張所8、
インターネット支店1

【地元エリアの店舗数】

- 岡山県内 109か店
 - うち岡山市内 39か店
 - うち倉敷市内 21か店
- 広島県内 26か店
 - うち備後地区 20か店
 - うち広島市内 3か店
- 四国地区 17か店
- 兵庫県内 5か店

海外拠点(1か店、3事務所)
香港支店、上海駐在員事務所、
ニューヨーク駐在員事務所、
シンガポール駐在員事務所

リスク管理体制



リスク統括部門

リスク主管部
リスク管理部門

業務運営部門

監査部

監査役(会)

監査法人(外部監査)

本部各部による業務統括(所管業務ごとに営業店・関連会社等の業務運営を指導・管理)

内外営業店・本部・関連会社の業務運営

リスク統括部の組織

リスク統括部

統合的リスク管理担当

(リスク管理全般の統括)
統合的リスク管理、市場リスク管理、
流動性リスク管理、自己資本管理

信用リスク管理担当

(信用リスク管理の統括)
信用リスク管理、与信集中リスク管理

オペレーショナル・リスク管理担当

(オペレーショナル・リスク管理の統括)
損失データ管理、RCSA運営

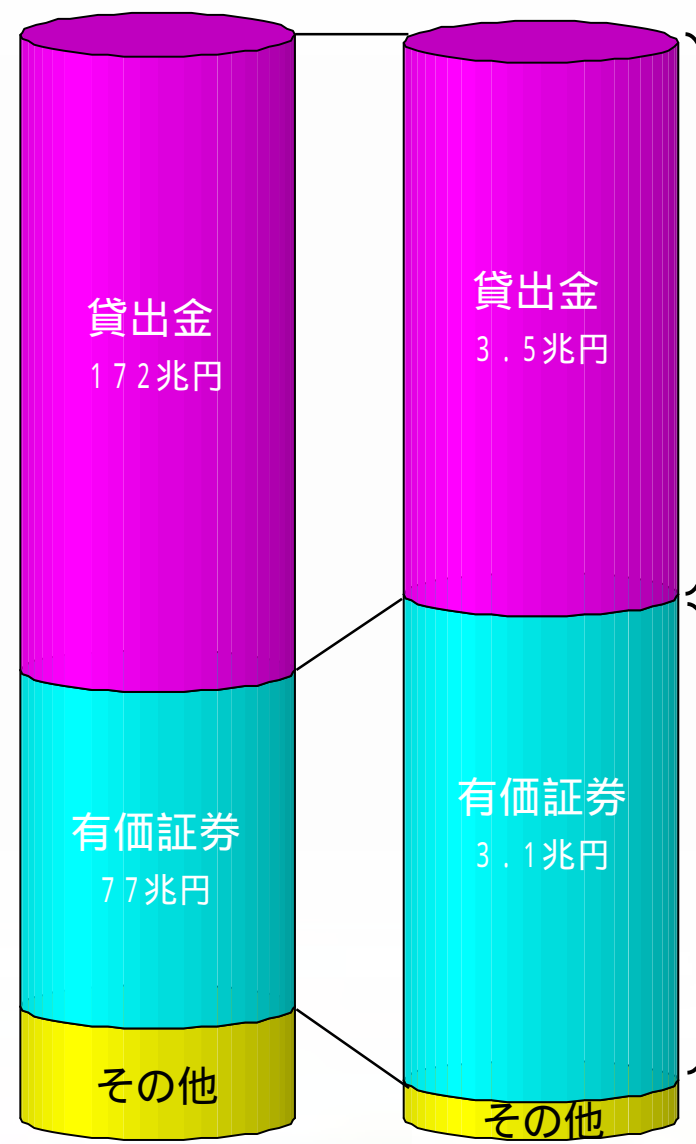
資産査定管理担当

(格付・自己査定の統括)
格付、資産査定、引当管理

2．リスク管理の枠組み

ポートフォリオ特性

【地方銀行計】	【当行】	(26/3末基準)
総資産	総資産	地銀協月報より
275兆円	6.9兆円	

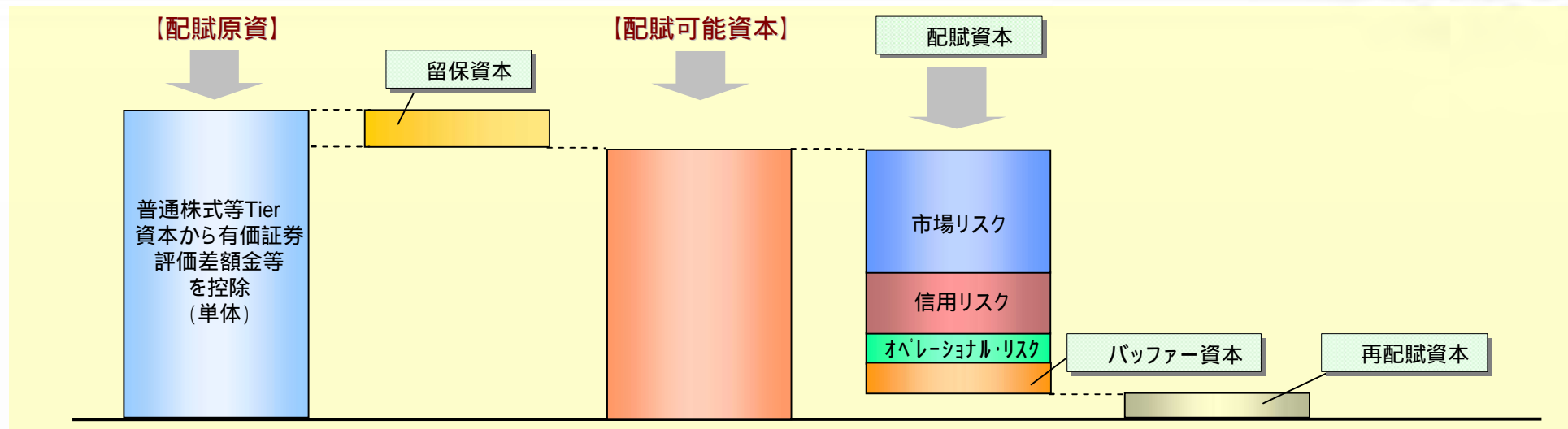


〔特性〕
貸出金の割合は51.3%
(地方銀行全体の割合:62.6%(国内店勘定ベース))
地方銀行全体に比べ、貸出金の割合は約10%程度低い

〔特性〕
有価証券の割合は45.2%
(地方銀行全体の割合:28.0%(国内店勘定ベース))
地方銀行全体に比べ、有価証券の割合は約17%程度高い

〔まとめ〕
地方銀行全体に比べ、有価証券運用の割合が高いことが特徴的
「市場リスク(金利リスク等)」の割合が大きい

資本配賦運営



(26/下計画値:億円) (3,785)

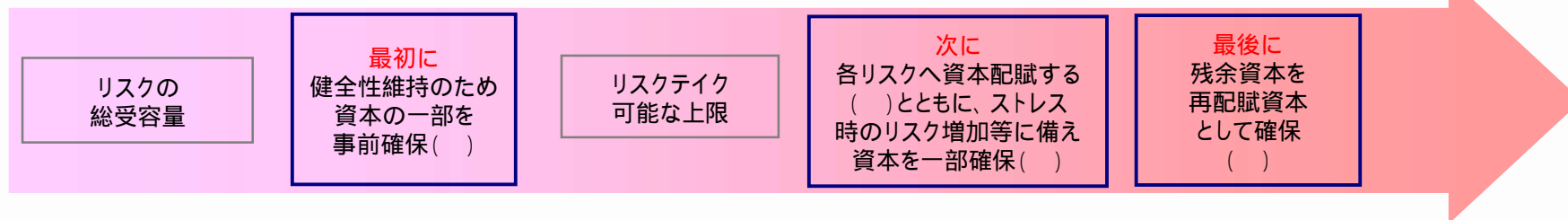
(160)

(3,625)

市場 (2,020)
信用 (800)
オペ (139)
バッファ (260)

(406)

【資本配賦の流れ】

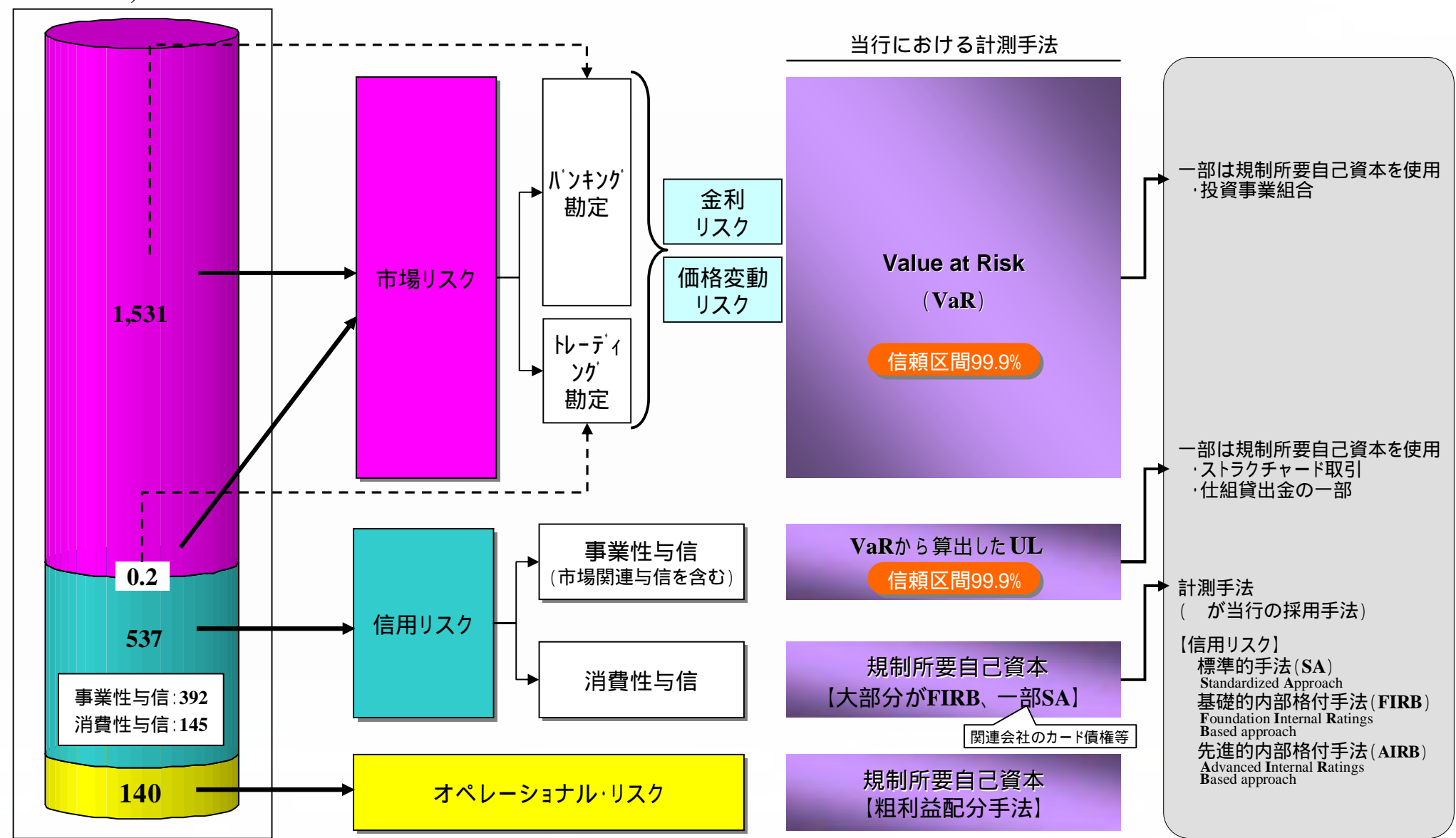


【各資本の役割】

留保資本	<ul style="list-style-type: none"> □ ストレス時に毀損する資本をあらかじめ取置き □ 計測不能リスクへの備え 	健全性確保のため 最優先で確保
配賦資本	<ul style="list-style-type: none"> □ 通常時の各リスクテイクの上限として、配賦可能資本の範囲内で各リスクへ配賦した資本 	各リスクカテゴリー毎 のリスク上限
バッファ資本	<ul style="list-style-type: none"> □ 計測モデルが捕捉できないリスクへの備え □ ストレス時のリスク量と配賦資本額の差額 	左記の場合において 増加するリスク量を吸収
再配賦資本	<ul style="list-style-type: none"> □ 新たなリスクテイク時に配賦(新商品/経営戦略など) □ 資本配賦後の残余資本を充当 	リスクテイク余力

資本配賦運営(リスク計測方法)

統合リスク量
2,209



26年9月末実績 (単位: 億円)

大半はVaRで計測。VaR計測が困難あるいは妥当でない場合は、規制所要自己資本を使用。

市場リスク管理

【基本方針】

市場リスクの状況を現在価値変動と資金利益変動の両面から把握・分析するとともに、ストレス・テストをおこなうなど多面的に評価する。

《各種限度額管理》

項目	内容
市場リスク限度額	V a Rにて管理（= 資本配賦運営により配賦された資本）
ポジション枠	運用資産毎の保有限度額（簿価残高ベース）
損失限度額	総合損益（実現損益+評価損益増減）ベース 実現損益ベース
アウトライヤー比率	バーゼル規制（第2の柱での金利リスク量の自己資本に対する比率）
市場部門与信限度額	与信グループ別の与信取引毎の限度額（クレジットライン、債券、株式）
国別与信限度額	国別の与信限度額（すべてのカントリーリスクが内包された与信が対象）

市場リスク限度、損失限度、アウトライヤーについては、アラーム・ポイント（協議ポイント）を設定し、リスク管理の実効性を確保。

- ・各種限度額は、半期毎の期間業務計画におけるリスク管理計画において決定
- ・計画は、「リスク管理委員会」、「ALM委員会」、「常務会」で協議後、「取締役会」において決議

流動性リスク管理

【基本方針】

資金繰りリスク……安定した資金繰り運営を行う

市場流動性リスク……商品ごとの市場規模、流動性等その他市場特性等を勘案し、市場流動性に十分配慮する

《各種限度額管理》

項目	内容
市場資金調達額	資金調達額に上限を設定し、過度な外部資金調達には頼らない態勢としている。
日本銀行の日中当座貸越・補完貸付制度等使用額	
資金ギャップ	資金ギャップを一定範囲内に抑制(円滑な資金繰りのため)
即日資金化可能資産下限	現金・預け金・利用可能国債残高・共通担保余裕額の合計 緊急時に資金決済に支障を来たさないよう、経営危機時に想定される流動性リスク額(必要手許資金+預金流出想定額+資金ギャップ)を上回る資産を確保

- ・各種限度額は、半期毎の期間業務計画におけるリスク管理計画において決定
- ・計画は、「リスク管理委員会」、「ALM委員会」、「常務会」で協議後、「取締役会」において決議

信用リスク管理

【基本方針】

経営体力の範囲内で、リスクに見合ったリターンを確保できる取引をおこない、健全な資産構造を構築するため、各業務部門にわたる多様な取引に内在する信用リスクについて、それぞれの特性に適合したリスク評価方法および管理方法を定め、適切に管理する

《各種限度額管理》

項目	内容
信用リスク限度額	V a Rから算出したULにて管理（= 資本配賦運営により配賦された資本）
グループ別与信限度額	債務者格付ランク別に与信管理基準額(与信上限額)を設定 格付ランク別の与信上限を超過する先については、個別に与信限度額を設定
業種別与信限度額()	特に管理を要すると判断される業種について設定
特定ポートフォリオ別与信限度額	与信ポートフォリオにおける与信集中度や業界動向等に鑑み管理が必要とされる業種・与信形態に対し設定
国別与信限度額()	国別の与信限度額(すべてのカントリーリスクが内包された与信が対象)

()現在設定なし ()市場性与信と合算管理

信用リスク限度、特定ポートフォリオ別与信限度額については、アラーム・ポイント(協議ポイント)を設定し、リスク管理の実効性を確保。

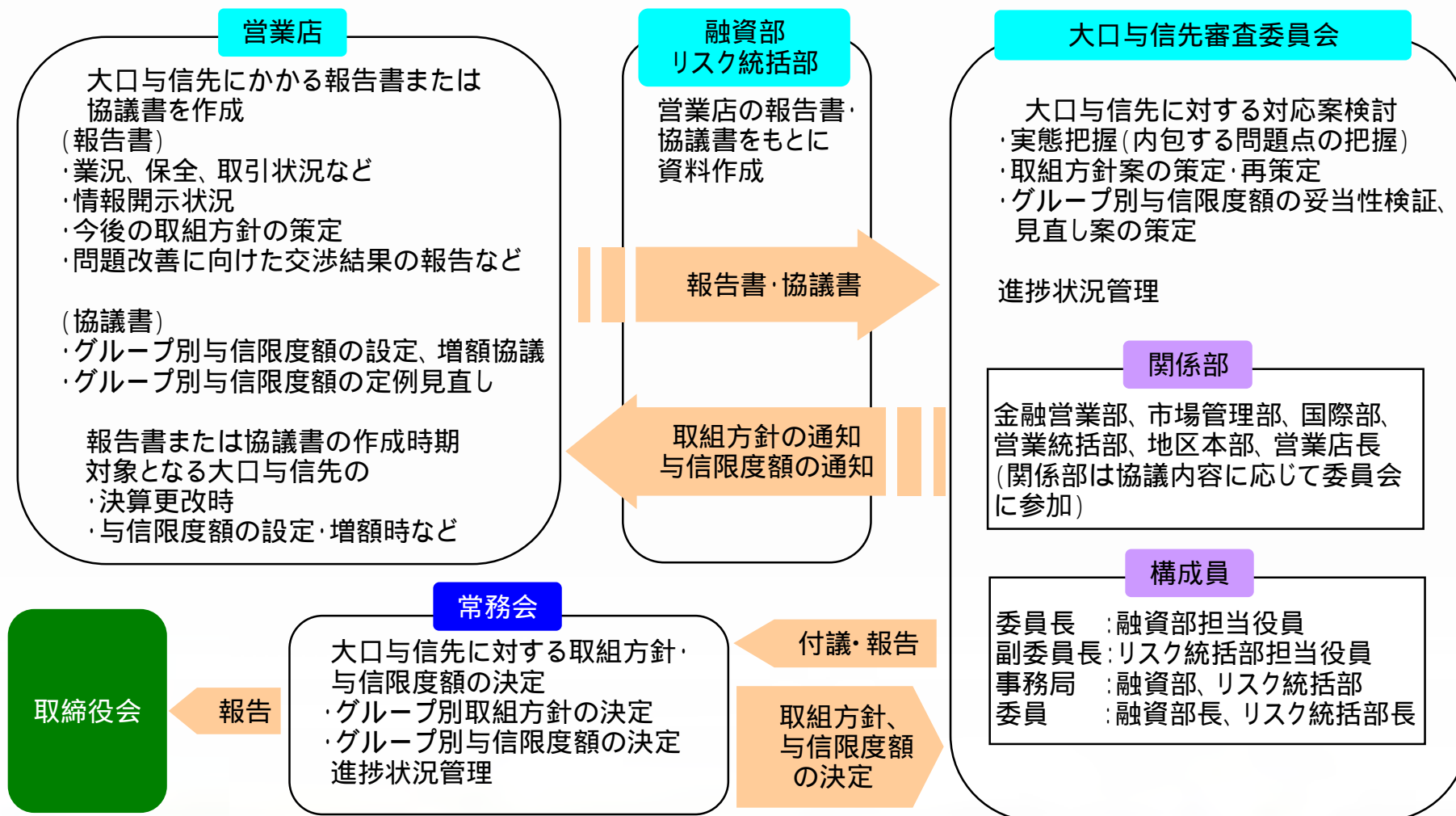
- ・信用リスク限度額は、半期毎の期間業務計画におけるリスク管理計画において決定
- ・計画は、「リスク管理委員会」、「ALM委員会」、「常務会」で協議後、「取締役会」において決議
- ・グループ別与信限度額は半期毎、特定ポートフォリオ別与信限度額は年度毎に見直し、「大口与信先審査委員会」で協議後、「常務会」で決議(一部「取締役会」の決議あり)

信用リスク管理

《大口与信先管理態勢》

大口与信先の管理態勢強化を目的として平成23年に「大口与信先審査委員会」を設置。経営に大きな影響を与える大口与信先について、対象先の選定基準を定めて、当該先の内包する問題点等について調査、分析のうえ経営陣に網羅的に情報提供を行い、問題解決に向けて組織的かつタイムリーな取組みを実践し、大口与信先の管理の実効性の向上を図っている。

(運営体制・プロセス)



案件によっては、取締役会へ付議し、取締役会決議が必要

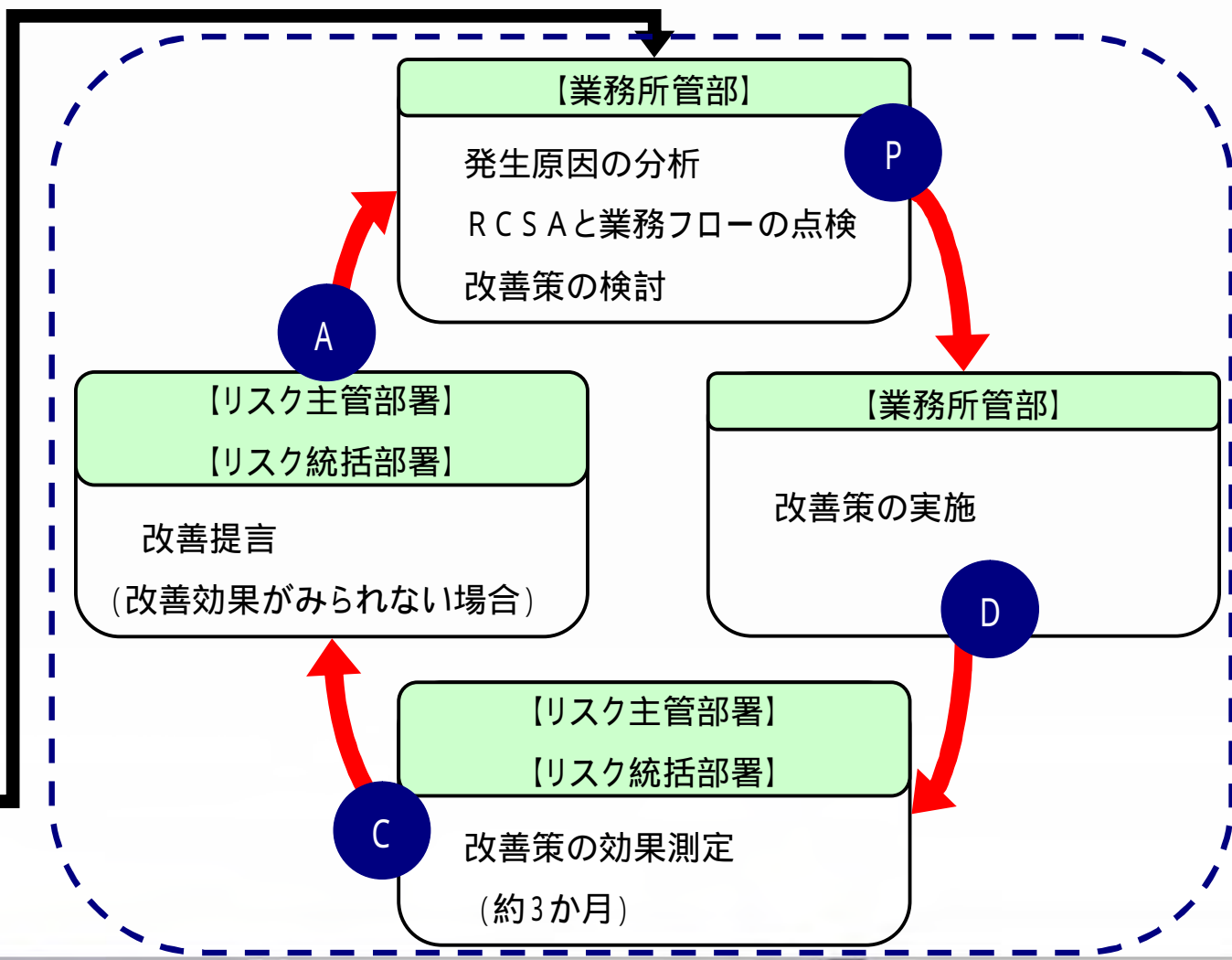
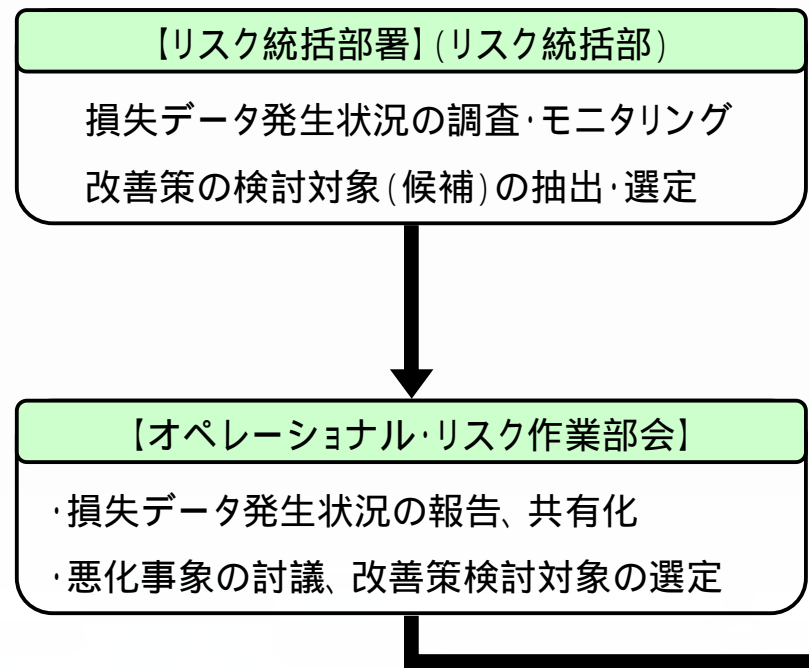
オペレーショナル・リスク管理

【基本方針】

オペレーショナル・リスクを適切に管理するための組織体制および仕組みを整備し、リスクの顕現化の未然防止および発生時の影響を最小限にとどめるため、継続的な管理をおこなう

《損失データを活用したオペレーショナル・リスクの管理・削減》

リスク管理のPDCAサイクルの確立



3．ストレス・テストの実践

ストレス・テスト

【目的】

ストレス・テストとは、経済状況や市場環境の悪化、その他当行業務に好ましくない効果を与える事態が発生した場合の当行の資産負債構造等にかかるストレスを想定し、ストレス下の統合リスクの水準・期間損益・自己資本の変動等をシミュレーションすることにより、「自己資本の充実度」、「リスク管理に関する方針の妥当性等」を分析、評価すること

《ストレス・テストの体系》

名称	統合 ストレス・テスト	市場業務に係る ストレス・テスト	リスク/収益 シミュレーション	外貨資金繰り ストレス・テスト
内容	全体の資産・負債を対象として、信用・市場・流動性リスク等の要因に着目し、健全性・収益性に影響を与えるシナリオに基づき実施	市場性商品(有価証券)を対象として、市場リスクを中心としたシナリオに基づき実施	業務計画時に、金利が急上昇した場合の健全性・収益性への影響をシミュレーションし、業務計画の検証、対応策検討の材料としている	外貨資金繰りに焦点を当て、市場性調達が一切できなくなった場合の耐久度(資金繰り可能な日数)をテスト
シナリオ 設定・協議	実施の都度、組織横断的にシナリオ募集し、リスク管理委員会で協議・設定	半期毎に、リスク管理委員会で協議・設定	リスク管理部署・収益管理部署でシナリオ設定	(現状) シナリオ変更なし
実施頻度	半期毎 (3、9月末基準)	月次	半期毎 (業務計画策定時)	月次 (26/上までは半期毎)
報告	リスク管理委員会 ALM委員会 取締役会	リスク管理委員会 ALM委員会 取締役会(四半期毎)	ALM委員会	リスク管理委員会 ALM委員会 取締役会(四半期毎)

ストレス・テスト

《統合ストレス・テストのシナリオ》

統合ストレス・テスト

波及シナリオ

- ・リスクの波及経路を考慮し、より蓋然性・納得性の高いシナリオを作成
- ・複数年にわたる影響をシミュレーション(3年程度)
- ・即時にストレス事象が顕在化する市場リスクと徐々に顕在化する信用リスクを異なる時間軸で検証
複数年にわたり広範なストレスを複合的にシミュレーションできるが、影響の要因分解は難しい。

個別シナリオ

- ・個別のリスク事象からシナリオを作成
- ・シミュレーションは単年度
一つのストレス事象からの結果が表れるため、影響が分かり易い

リバース・ストレス・テスト

- ・当行の存在を脅かすような事態を招くのは、どのようなシナリオが発生した場合かを逆算
- ・市況変動の影響(健全性、収益性の視点)
- ・与信コスト増加の影響(健全性、収益性の視点)
- ・ + 合算
(当行の存在を脅かすような事態の想定)
- ・健全性(普通株式等Tier 比率:12%割れ、10.5%割れ、総自己資本比率:10.5%割れ)
- ・収益性(配当可能な利益水準確保、赤字決算)
シナリオの蓋然性の説明は難しい

ストレス・テスト

(過去に実施した想定シナリオ)

種類	想定シナリオ	影響
波及シナリオ	低成長継続シナリオ(緩やかな景気後退) (1)	信用リスク量、市場リスク量、与信コスト、自己資本比率
	スタグフレーション懸念シナリオ(悪い金利上昇) (2)	
	日本国に対する信認低下シナリオ (2)	
個別シナリオ	輸出産業の格付ランクダウン	信用リスク量、与信コスト、自己資本比率
	自動車関連業種の格付ランクダウン	
	電力会社グループの格付ランクダウン	
	消費増税の影響を受ける業種の格付ランクダウン	
	大口上位 グループについて格付ランクダウン	
	大口上位 グループについて非保全額を 億円増加	
	米国の格付ランクダウン	
	金融円滑化対応先の格付低下(非保全額の毀損)	

(1)「告示第200条」に対応 (2)「告示第199条」に対応

ストレス・テスト

《市場業務に係るストレス・テストのシナリオ》

- ・有価証券のみを対象としていることから、有価証券ポートフォリオのリスク特性にあわせ、シナリオを設定。
- ・金利上昇シナリオとしては、イールドカーブ形状変化(フラット化、スティープ化等)も含め、複数のシナリオを設定

市場業務にかかるストレス・テスト

(シナリオ想定(26 / 上期))

金融機関のリスク許容度の低下

- ・金利・・・上昇(パラレルシフト)
- ・株価(REIT含む)・・・下落
- ・信用リスク・・・拡大
- ・流動性・・・悪化

世界的インフレ懸念の台頭

- ・金利・・・上昇(スティープ化)
- ・株価(REIT含む)・・・下落
- ・為替・・・円高

国内財政危機の波及

- ・金利・・・上昇(フラット化)
- ・株価(REIT含む)・・・下落
- ・信用リスク・・・拡大
- ・流動性・・・悪化

26年度上半期想定レンジ下限

- ・金利・・・上昇(想定レンジ上限)
- ・株価(REIT含む)・・・下落(想定レンジ下限)

- 補足(ストレス事象と影響の想定)
- ・信用リスク・・・拡大
「事業債等のスプレッド拡大」
 - ・流動性・・・悪化
「証券化商品等の時価下落」
 - ・為替・・・円高
「投資信託(為替オープン)の時価下落」

ストレス・テスト

《結果の活用》

資本配賦運営への活用

「留保資本」の設定根拠

「貸倒引当金の増加」による資本毀損への備え

「バッファー資本」の設定根拠

「リスク量の増加」への備え

オペレーションへの活用

金利急上昇時の債券売買オペレーションの検討

いざという時のリスク削減策を事前に把握

債券売買オペレーションの効果の検証

オペレーション案のリスク削減効果、収益への影響等を把握

ストレス・テスト

《今後のテーマ》

テーマ 「マクロ・ストレス・テスト」の実践

世界(日本)のマクロ経済指標の変化が、地元経済に及ぼす影響は？
// どのように波及していくのか？



意味のある(蓋然性のある)シナリオ設定ができるのか？

テーマ 結果の活用

RAF(リスク・アペタイト・フレームワーク)への活用
資本政策等の検討
リカバリー・プランの作成、検証
ポートフォリオ診断
…etc.

結果の一段の有効活用がテーマ



あしたも、いっしょに。

中国銀行

株式会社中国銀行

〒700-8628 岡山市北区丸の内1丁目15番20号
TEL.(086)223-3111

ホームページ <http://www.chugin.co.jp>

本資料内容の無断転載・複製をご遠慮ください。
本資料に掲載されている情報の正確性には万全を期しておりますが、
中国銀行は、利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為につい
て、何ら責任を負うものではありません。